

平成 30 年度 多摩市立図書館利用者懇談会

日 時： 平成 30 年 12 月 8 日（土）午後 5 時 30 分から 7 時まで

場 所： 聖ヶ丘図書館

出席者： （利用者） 11 名

（図書館）図書館長、図書館本館整備担当課長、企画運営担当主査、
聖ヶ丘図書館長、聖ヶ丘図書館職員、企画運営担当職員

○ 前半 図書館ホームページについて（操作説明）

30 分程度、図書館ホームページの使い方について職員が画面を操作しながら説明し、新システムについての意見を伺い、質疑応答を行った。

○ 後半 懇談会

日頃の図書館サービス、図書館運営について意見をいただいた。

聖ヶ丘図書館について

利用者： 知り合いから聞いた話だが、外国では、ほとんどの書架が閉架であるという図書館があるらしい。貸出・返却などの手続きがすべて自動化され、対面ではない。それに比べ、多摩市の図書館は開架で本を直に手に取って中身を見ることができ、読みたい本を探せる。手続きも対面である。その国に住んでいる方が聖ヶ丘図書館を見た際、この図書館は生きていると言ったと聞いた。これからも多摩市は対面で本を手にとって見ることができる開架式であることを大事にしていく図書館であって欲しい。

旅行や医療についての本の情報が古い。旅行書は、がっかりする程の古さの本が置いてあるので考えて欲しい。医療については、新しい本に加え、医療情報も欲しい。医療情報を得るのに、ここには扱っていないが他で扱っているといったような、専門的な場所への案内をしてくれることを望む。

図書館： 今後、開架を閉架にするという動きは考えられない。すべて閉架という時代もあったかもしれないが、今では「開架書庫」のように、書庫も開架にしていく動きがある。

貸出の自動化については、現在、手続きに人手がかかりすぎている面があり、なんとかしたいと思っている。職員を全くの無人にするつもりはないが、利用者が自分で図書館の本の手続きを行える機械の設置は必要と考えている。

また旅行書の古さについては、書架に出版して 5 年以内の本が何%あるかを調布市や浦安市と比較したことがある。聖ヶ丘図書館では 25%、調布市や浦安市の分館では 50%くらいだった。調布市や浦安市の図書館では、分館にはある分野に

ついて新しい本を置く、中央館は古い本も多少厚めに置くといったような考え方で運営しているためである。多摩市では本館や書庫がきちんと機能していないため、本館に古い本を置き、地域館に新しい本を置こうという動きがまだできていないところがある。中央館と分館の役割についても基本構想や基本計画の中で議論している。

図書館： 旅行書については、先月、書架の担当が古い本を抜いて廃棄作業を行った。新しい本の買い替えが間に合っていないので、新しい本も入れられるようにしたい。新しい本は予約が入るため書架になく、古い本が残っている場合が多いと思われる。予約を上手く活用してもらおうと良い。医療情報も古くて申し訳ない。なるべく新しい本を入れられるように選書会議に提案していきたい。良い本があればぜひリクエストで要望してもらいたい。

地域館の蔵書について

利用者： 豊ヶ丘図書館では聖ヶ丘図書館より狭いが、本の冊数が多い。豊ヶ丘図書館も古い本が多いが、広い分野の本があり、年間延べ6万人近く利用している。拠点館の次に利用率が高い豊ヶ丘図書館の存続が気になる。新本館の検討委員会の中でも地域館の本の置き方が、地域館や本館の役割分担としてでてきていた。豊ヶ丘では高齢化率が40%を越えている。図書館については、利用者が今まで便利に使っていたし、近くないと高齢者は図書館に行けない。高齢者はパソコンを使うのも難しいので、窓口で職員に本を探してもらえる方が、年寄りには親切だと思う。開架式で本をしっかりと置いている図書館があるということが、山や谷の多い多摩市では欠かせないことだと思う。

図書館： 豊ヶ丘図書館や聖ヶ丘図書館では、利用者の50%くらいが高齢の方である。今回の懇談会では、ホームページを実際に見てもらい、使いにくいところについてご意見をいただきたく、ホームページの説明を入れた利用者懇談会を企画した。

パソコンを使い慣れていない方にも、職員に気軽に声をかけていただき、使い方を案内できるようにしたい。今後各館でもホームページの使い方を説明し、もっと便利に使っていただけるように努力したい。

利用者： 最近図書館巡りをしているが、他の図書館には聖ヶ丘と違う面白い本がある。本は指定して呼ぶことができるが、多摩市としては持っていない、その本が面白いということは知らないから、実際に行って本をこの目で見ないとわからない。図書館全部を巡ってみると、全く違う本が置いてある。聖ヶ丘図書館の本は良く見ているから見慣れているが、他の図書館にも面白い本があるので、これからもどんどん図書館を巡りたい。

図書館： コンピュータで検索できるようになる前は、どの図書館でも利用者の目にふれ利用できるように複本を買うことが多かった。予約で取り寄せができるようにな

ってからは、複本の買い方が変わった。今は各館に同じ本を置くことは少ない。多摩市では蔵書が固定されておらず、返却された図書館の蔵書になるので、利用者が予約で取り寄せて図書館の蔵書を作ってしまう面がある。京王沿線七市連携により、多摩市民は八王子市、日野市、町田市、府中市、調布市、稲城市の図書館を使うこともできるので、多摩市以外の図書館めぐりもお勧めしたい。

おはなし会について

利用者： 水曜日に聖ヶ丘図書館でおはなし会をしているが、最近子どもの参加の様子が変わっている。（近隣に）障がい児の放課後デイサービスができてから、デイサービスの子どもたちが来てくれるようになった。図書館職員に相談して、子どもたちが来やすい時間におはなし会の時間を変更したりすることができた。図書館に協力し、一緒に活動している者として、聖ヶ丘の職員の対応が良かったと思っている。聖ヶ丘だけでなく、他の図書館の児童サービスでもそういうことができたらい。他の図書館で活動しているボランティアからは、担当の職員が一度もおはなし会の様子を見に来ないようなことがあると聞く。ボランティアと図書館のつながりについての良い例を他の図書館でも活かして広げていって欲しい。

図書館： 現在、子ども読書推進計画のアクションプランを作成している。各館のおはなし会の実施内容を吸い上げて今後 5 年間で何ができるかを考えている途中である。障がい児と健常児とのバリアフリーなおはなし会を全館に広めたいという考えから、初めての試みでデイサービスの代表の方とつくしんぼ文庫の皆さんと聖ヶ丘図書館で話し合いを行なった結果実現した。デイサービスに通うお子さんが車椅子で来館し、楽しそうにおはなし会を聞いている。他の館でもできると良い。聖ヶ丘図書館と永山図書館では、今後も障がい児へのおはなし会について取り組んでいく。

図書館： 3 月に策定した第三次多摩市子どもの読書活動推進計画では、障がい者への支援を重点施策としている。昨年度と今年度は、都立多摩桜の丘学園を図書館職員が訪問し、おはなし会を行った。クラスごとに様々な障がいを持った子どもがいるので、どのように接したら良いか、試行錯誤しながらプログラムを決め、対応した。おはなし会の感想文等をもらい感動した。感想文は今度展示したいと思っている。これからも、図書館はさまざまな場所でつながりながら、読書の支援をしていきたい。ボランティアと図書館員の関わりについては、図書館によって職員の対応がまちまちなのは問題である。児童サービス担当の職員が集まる会があるので、今日聞いたお話を共有する。

利用者： 豊ヶ丘図書館でもおはなし会の状況が変わってきている。高齢化かがすすんでいて子どもが少なく、自分もおはなし会をしているが、一年くらい前から、平日の午後のおはなし会には来てもらえないことが多い。同じ建物内の学童クラブの

子どもがいるときに誘えば 10 人くらい来てくれるが、学童の子どもがいなければ多くて 3、4 人で、平日の午後のおはなし会について悩んでいる。平日におはなし会行うのは厳しいと感じている。市の掲示板等で宣伝して季節のおはなし会を日曜に行ったところ、親子で 7、8 人来てくれた。水曜の午後は、放課後に子ども教室があったりして町の中に子どもがいない。こうした子どもたちの様子について話ができる場があるとよい。

利用者： ボランティア連絡会があるのでそういうところで話し合える。

開館時間について

利用者： 働いていたときは本が借りられるのは土日だけ。多摩市の図書館をあまり利用していなかった。永山図書館や関戸図書館は 19 時半まで開館していて良い。9 時から 17 時の利用はどんどん減ってきているようだ。聖ヶ丘図書館は平日は 18 時まで、土日は 17 時までだが、試験的に土日も 18 時まで開館できないか？

利用者： 基本計画でも開館時間をシミュレーションしてみようという話があるが、どこかの図書館で試行することになっているか？

利用者： 利用の仕方として本の貸出だけでなく、閲覧だけ利用する人もいるから、データは取りづらいのではないかな。

図書館： 貸出の時間のデータはある。記憶が曖昧なので今は確かなことは言えないが、駅前拠点館は閉館時間に近づいてきても利用が減らない。地域館では平日の 17 時台になると利用が減ってくる。

基本計画の中では、働いている方を含め多くの方が駅を利用されるので、駅の近くの図書館だけピンポイントに開館時間を延ばしたらどうかと考えている。市民の方からの意見でも、都心に勤めていると 19 時半まで開館していても利用するのが厳しく、24 時まで開館して欲しいという声もあった。人件費がかかるため、予約した本の受け取りだけ行う等、人数・サービスを絞った形で開館時間を延ばすといった工夫を考えなければならない。まだ具体的には決まっていないが、人件費とのバランスを考えていきたい。

閲覧席について

図書館： 先ほど子どもの話が出ていたが、他の自治体の図書館で、幼児や乳児と母親がガラス張りの部屋を利用しているのも見たことある。新しい建物は子どもの声の問題など考えて作られたのだと思う。永山図書館の社会人席は集中することができる。テレビである大学の図書館の閲覧席の様子を見たが、座席がすべて壁を向いていてとても良いと思った。検索システムで本を探すのはカタログショッピングみたいなもので、実際に本を見るのとは情報量が違う。手に取れる開架が良

い。

図書館： 新本館を検討するにあたって閲覧席についても考えているが、対面の大きな机で 4 人掛けの席の場合、2 人ほど先に座っている人がいると、後から来た人が座りづらく感じてしまうので、1 人掛けの席が多めの方が良いという研究がある。図書館が新しくなる際には、そうしたことに配慮したほうが良いと思っている。

利用者： 現在の本館は 2 階に座席がたくさんあるし、豊ヶ丘図書館も 2 階に座席があって良い。

利用者： 調布の図書館は窓に向かってテーブルと椅子があって使いやすい。

本の汚破損について

利用者： 今の図書館が使いやすいという話がこの場が出たが、現状の図書館の体制を維持させていくため、利用者の図書館の使い方について図書館から要望はあるか？

図書館： 図書館で困っていることとしては、本の汚損、破損の問題がある。うっかりしたことで汚れてしまう例が増えている。弁償もお願いしているが、もともと汚れていたような本を自分がちょっと汚したくらいで何故弁償しなければいけないのかと苦情を受けることもある。汚したから即弁償ということではなく、市民の財産である本を大切にしたい。

図書館： 永山図書館で利用者カードを更新するときに、袋に入れて本を持ち運ぶなどして本を扱ってもらうようお願いしている。ペットボトルの水滴でカバンの中の本が水に濡れてしまったり、窓際に本を置いていて結露で本が歪んでしまうこともあるといったような注意を案内している。本の保護をお願いする。永山図書館では利用者が大変多く、丁寧な対応ができなくて申し訳ないと思っているが、聖ヶ丘図書館では、丁寧な対応ができているのではと思っている。落ち着いている聖ヶ丘図書館の利用が伸びるよう、ロコミで利用を伸ばれば図書館を維持する働きにつながるのではないかな。

その他

利用者： 12 月に豊ヶ丘図書館友の会を立ち上げる。できたら 50 人くらいで発足したいので、宣伝のチラシ置かせてほしい。図書館のホームページの地域館の宣伝が乏しい。9 月のおはなし会のプログラムが 10 月まで掲載されたままだったり、これから行うおはなし会のプログラムが掲載されていないことがある。図書館も地域館を大事に考えていると思うが、地域館について活発に掲載して欲しい。

利用者： 高齢者がパソコンを利用するには限度があり、利用は広がらない。現状では、聖ヶ丘図書館ではほとんどの人が窓口を利用しているのではないかな。どの図書館

でも、職員が専門的な知識を持つと同時に優しく対応してくれることが大事で、積極的にすてきな人柄をアピールした方が良い。コンピュータ化が進むと同時に欠かせないことである。

図書館： 図書館職員自身が、図書館が何のためにあって利用者に対してどう働きかけなければならないかを考えれば、窓口に立つ際の姿勢、態度は自ずと出てくるはず。今日は大事な話を皆様にしていただいた。ありがとうございました。

聖ヶ丘図書館からのお知らせ

図書館： 年の始めに各図書館で本の福袋を行う。聖ヶ丘図書館では福袋におまけとして手作りのしおりも付けて貸出する。

新本館について

図書館： 新しい本館が 2022 年に開館する。多摩中央公園内への移設を計画している。
本館では、全館の本の選書や地域館のバックアップもしているが、今の本館では機能が足りてないのでリニューアルする。本館では、職員向けの研修もしている。本館の機能がしっかりした中で地域館との情報共有や地域館の職員の育成も充実していきたいと思っており、聖ヶ丘図書館の利用者からもぜひ応援して欲しい。
本日は、ありがとうございました。